

# 鎌倉日和

vol.61

新春の候、皆様ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素

は格別のご厚情を賜り、ありがとうございます。

本年の干支は午（うま）ですが、「走り抜ける馬」のようにスピード・情熱・挑戦・飛躍を象徴する年です。特に2026年の丙午（ひのえうま）は火の力が重なり、非常にパワフルで新しい挑戦や諦めかけていたことに再挑戦するのに適した一年になると言われています。

情熱をもって目標に向かい、チャンスを掴む年にしたいですね。



## 鎌倉ブランドのお客様

### 有限会社パワースポーツ様

#### ● 人と自然をつなぐクラブハウス ●

材木座海岸入り口にある OSJ 湘南クラブハウス。週末にはロードバイクやウェットスーツ姿の人が出入りする賑やかな光景を目に入れます。ここは、有限会社パワースポーツ代表取締役滝川次郎さんが支配人を務め、トレイルランニングやトライアスロンなど、様々なアウトドアスポーツの拠点です。「どうしてもクラブハウスを作りたかったんです」と屋上からキラキラと光る海を眺めながら、日焼けした顔をほころばせる滝川さん。目の前の海で泳ぐこともでき、トレイルランニングに最適な山もすぐ近くにあるという絶好のロケーションで、15年以上もの間、アウトドアスポーツ愛好者のコミュニティを育んできました。また、2025年の夏には、鎌倉の海に恩返しをしたいという思いから仲間を募り、ライフセービングチームを立ち上げて海水浴シーズンの安全に貢献しました。

#### ● 世界を舞台に走り続ける ●

滝川さんは62歳の今も世界各国のアイアンマンレース（※1）やUTMB（※2）の出場を目指し、日々トレーニングをしています。30代後半、前職でハワイのトライアスロン大会を任せられたことがきっかけでこの世界に入りました。世界中からトップアスリートが集い、応援する観客の熱狂と自然や街が一体となる盛り上がりに圧倒された滝川さんは、いつかこのような大会を日本でも開催するとともに、自分自身も出場したいという夢を抱くようになります。

それと同時に、選手達がレース中に手にするエネルギー補給食に注目します。当時日本にはその発想も商品もなく、中でもアメリカの「PowerBar（パワーバー）」を試して効果を実感した滝川さんは、日本でも「売れる」と確信し、輸入販売のために起業を決意しました。最初はなかなか思うように売れませんでしたが、「日本での競技人口が増えれば売れるはず」と市場そのものを創る発想で、トレイルランニング等のイベントを主催。その功績により2009年には日本総代理店となり、全国展開が可能となりました。



※1：世界最大規模かつ過酷なトライアスロンレース  
※2：ウルトラトレイル・デュ・モンブラン。

モンブラン山岳地帯を走る世界最高峰の大会で、トレイルランナー憧れの舞台。

#### ● 夢の舞台は地域とともに ●

「パワーバー」で日本のエネルギー補給食市場を切り拓いた滝川さんですが、2017年の食品規制の変更で販売停止の危機に直面します。「輸入がだめなら作るしかない。」持久力が必要なスポーツで、エネルギー補給食の効果を身をもって実感していた滝川さんは自社製品開発に挑み、スポーツ栄養学とアスリートの声を反映した「Challenger（チャレンジャー）」「Top Speed（トップスピード）」などのブランドを立ち上げました。これらは事業の柱として商標登録を取得し、今では海外から取引の声がかかるほどのブランドに成長しました。

この成長の背景には、全国で年間25回を超える自治体との連携イベントや、サポート選手の発信も勿論ありますが、何より滝川さん自身が今も現役で過酷なレースを走り切る姿が、ブランドの最も説得力あるPRになっています。

そして創業25周年を迎えた2025年6月、「いつか日本でも」と滝川さんが描き続けた夢がひとつ実現しました。石川県加賀市・山中温泉で、UTMB史上日本初開催となる「Kaga Spa Endurance100 by UTMB」実現に漕ぎつけたのです。UTMBフランス本部や石川県、関係各所と幾度も調整を重ね、困難を乗り越えながら準備を進めた結果、世界中から集結したランナーと、歴史と自然が調和して加賀の地が一体となった素晴らしい大会となりました。滝川さんは、イベントを一過性のブームで終わらせないために、開催地への敬意と貢献を不可欠な要素としています。だからこそ、ただ夢を叶える舞台としてではなく、2024年元旦に甚大な被害を受けた能登半島地震の復興に力を注ぎたい—その強い願いを胸に、この地を選んだのです。

アウトドアスポーツを取り巻く環境を様々な側面から支え、自身もプレイヤーとして最高に楽しみながら業界を引っ張ってきた滝川さん。当事務所は、各分野のパイオニアとして活躍する皆様が、ワクワクしながら新たなことに挑戦できるよう、知財の面からバックアップしていくたいと考えています。

#### 有限会社パワースポーツ

神奈川県鎌倉市常盤 628-3

TEL : 0467-40-5737

URL : <http://www.powersports.co.jp/>

#### OSJ 湘南クラブハウス

神奈川県鎌倉市材木座 6-4-27

TEL : 0467-61-2235





## ● 交流から生まれる価値 ●

このたび、パワースポーツ様が中国でのイベント開催や商品展開を行うにあたり、国内および中国における商標登録出願のサポートをさせていただきました。

現在、中国の商標登録市場は世界的にみても圧倒的に巨大です。特許庁の統計（2023年）によれば、一年の日本の商標登録出願件数が約16万件であるのに対し、中国は約718万件。実に40倍以上という規模です。これは世界2位の米国（約54万件）と比較しても桁違いであり、その市場の巨大さが窺えます。

中国では商標自体に経済的価値があり、商標の売買も盛んで、商標取引の専門サイトも多く存在します。出願・登録の件数が膨大であるため、先行登録との抵触が頻繁に起こり、使用実態のない商標も多く存在すると言われています。そのため中国出願においては事前の調査が欠かせません。

今回のパワースポーツ様の調査においても先行登録が発見されました。その商標は使用実態が疑わしいものでした。日本と中国の商標制度は共通点も多く、ともに3年以上不使用の登録商標は不使用取消審判を請求することができる制度を持っています。そこで本件では、不使用取消審判を請求し、先行登録を消滅させたうえで出願手続を進めました。

このように、商標制度ひとつ見ても、日本と中国は似た制度を持ちながら、大きく考え方が異なります。その違いは、ときに摩擦を生みますが、同時に、新たな価値を生み出す力にもなり得ます。

- この鎌倉もまた、古来より中国と深い関係を持ってきました。鎌倉文化の礎となった禅宗は、宋から招かれた高僧、蘭溪道隆（建長寺）や無学祖元（円覚寺）らによってもたらされ、寺社建築や仏像、鎌倉彫をはじめとする工芸は、海を渡る人と人の交流によって花開きました。



- その交流の舞台となったのが、パワースポーツ様の拠点である材木座です。和賀江島の築港には交易船が並び、鎌倉と宋を結ぶ海の玄関口として賑わいました。材木座から国境を越えた交流が始まり、文化が生まれていったのです。

- しかし王朝が元に替わると関係は一変し、元寇によって交流は断絶。国家間の緊張が文化交流を断ち切り、それが鎌倉幕府崩壊の引き金ともなりました。

- 歴史を振り返ると、異文化との接触が新たな価値を生むのは、国や政治の思惑ではなく、人と人との交流によるものです。禅を伝えた高僧、海を渡った商人、宋で学んだ知識人。鎌倉文化は、民間の自由な往来と挑戦の精神によって築かれました。

- 数か月前までの鎌倉は、中国人観光客でぎわっていましたが、国家間の事情により、現在はその姿をほとんど見なくなってしまいました。

- 国際関係は決して簡単ではありませんが、だからこそ民間レベルの交流を絶やすべきではありません。スポーツ、観光、そして知的財産。国ではなく人が作る交流からこそ、新たな価値が生まれるはずです。パワースポーツ様の挑戦が、鎌倉と中国をつなぐ新たな航路となり、未来に向けてその関係を育んでいくことを、心から願っています。

弁理士 芦田 圭司

## 新年明けましておめでとうございます



新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2009年の開業以来、この鎌倉・湘南の地で17年という歳月を積み上げることができました。皆様の支えがあってこそ、いま私たちがあります。改めて心より感謝申し上げます。

なぜ、私は「鎌倉」にこだわるのか、自らの原点を分析してみました。小学生の夏休み期間に、従兄弟の家に泊まり込み、3日間かけて60箇所以上の寺社仏閣を巡っては写真を撮り、レポートにまとめた自由研究をしました。そして、幼い頃に感じた鎌倉の魅力が「大人になつたら、この街で仕事をしたい」という人生の目的となっていました。

17年間の実務を通じて多くの経営者様と接する中で、一つの仮説が確信へと変わりました。それは、「鎌倉という街自身が、極めて優れたブランド戦略を実行している」ということです。

守るべき本質（伝統）を強固に維持しつつ、新しい文化（革新）を柔軟に取り入れ、融合させてきた鎌倉。これこそが不易流行の本質であり、長く続く事業に共通する生存戦略です。

2026年、ビジネス環境は生成AIをはじめとする技術革新により、かつてない速度で変化しています。しかし、ツールがいかに進化しようと、皆様の事業の根底にある「想い」「信用」という「芯」は変わりません。むしろ、変化の激しい時代であるからこそ、えてはいけない「芯」を知的財産権で保護すること。そして、その盤石な基盤の上で、最新技術を使いつなげて大胆に変化していくこと。この「守り（知財）」と「攻め（技術）」の戦略的なバランスこそが、次の成長につながると確信しています。

私たちもまた、鎌倉という土地の戦略に学び、変化を恐れず進化を続けていきます。皆様の事業のかけがえのない「芯」を守り抜き、戦略的に次代への挑戦を支える専門家でありたい。その情熱は、開業初日から些かも変わることはあります。本年が、皆様にとって新たな戦略が結実し、飛躍の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



将星国際特許事務所  
所長弁理士 渡部仁

SHOUSEI International Patent Office

**将星国際特許事務所**

〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町2-11-14 山中MRビル3F

TEL: 0467-73-8540 (平日10:00~18:00)

FAX: 0467-73-8541

Email: info@shousei.jp

URL: <https://shousei.jp/>

